

規範意識・基本的生活習慣の定着が学力に影響

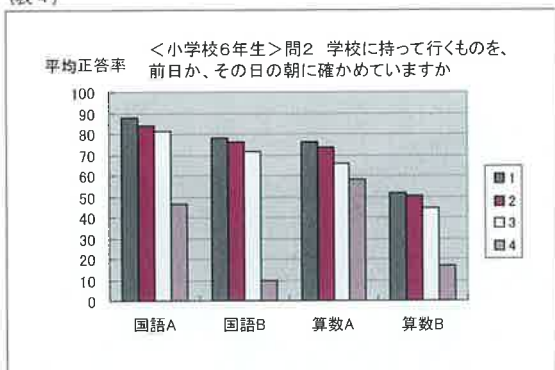
学力との相関が

強く見られるもの

質問紙調査において、肯定的な回答をした児童生徒の方が、教科に関する調査の平均正答率が高くなる傾向がみられる項目があります。

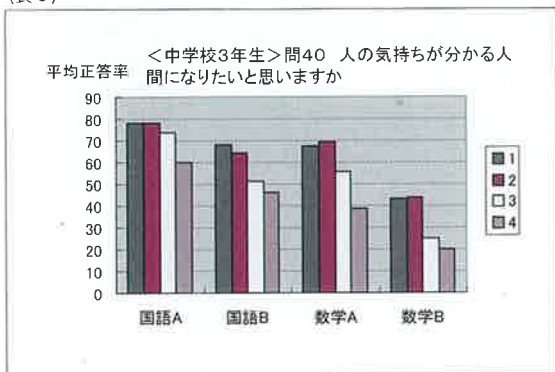
基本的生活習慣や規範意識、地域や家族の一員としての意識などは、教科の学力と強い相関関係にあることがうかがえます。

(表4)



「学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめていますか」(表4)、「学校の規則を守っていますか」(表5)、「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」(表6)、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」(表7)という項目では、小学校6年生・中学校3年生とも肯定的な回答をした児童生徒と否定的な回答をした児童生徒の正答率の差が大きく、強い相関関係があることがうかがえます。

(表6)



また、「読書は好きですか」(表8)という項目についても、相関関係が顕著にみられます。特に、この項目では、小学校6年生において、より強い相関関係がみられます。

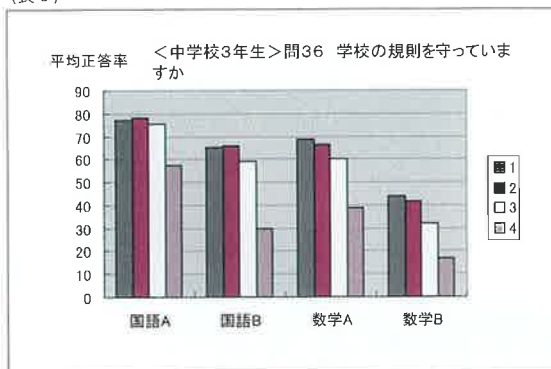
町内でも生後6か月に行うブックスタートやブックセカンド、ブックサード、小中学校での朝読書などに取り組んでいますが、読書好きの児童生徒を育てるため、家庭での取り組みも大切です。

地域全体で取り組みを

基本的生活習慣、規範意識、地域や家族の一員としての意識などは、学力と強い相関関係があります。

学力が全てではありませんが、子どもたちの夢の実現や将来の選択肢を広げるためには欠かせないものです。保育所・学校と家庭、地域全体で、子どもたちのための取り組みを強めましょう。

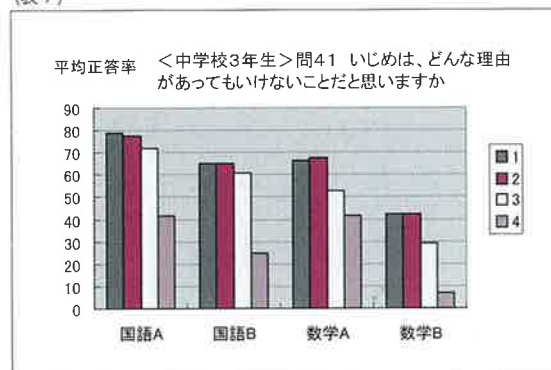
(表5)



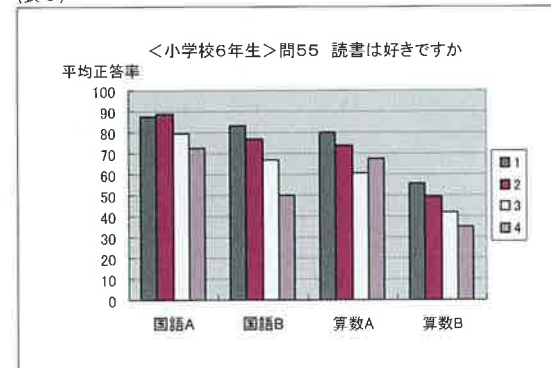
グラフには示していませんが、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「友だちとの約束を守っていますか」という項目についても、強い相関関係がみられます。

こうしたことから、子どもの生活に一番身近な存在である家庭や学校で、子どもの望ましい基本的生活習慣や規範意識の定着を図ることが必要であり、そのために、具体的な取り組みをしていくことが必要です。

(表7)



(表8)



回答の内容

■ 1 肯定
■ 2 どちらかといえば肯定
□ 3 どちらかといえば否定
■ 4 否定